

株主・投資家の  
皆様へ

# Creativity & Challenge

**平成17年7月期(第44期)中間事業報告書**

平成16年8月1日から平成17年1月31日まで

**JASDAQ**

証券コード：6267



包装システムのトータルプランナー

**ゼネラルパッカー株式会社**

# 主要経営指標

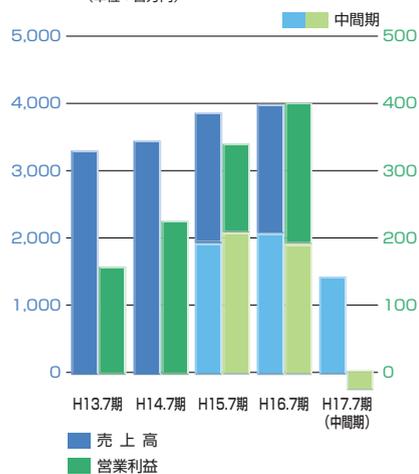
# FINANCIAL HIGHLIGHTS

(単位：百万円)

		平成13年7月期 (第40期)	平成14年7月期 (第41期)	平成15年7月期 (第42期)	平成16年7月期 (第43期)	平成17年7月期 (第44期)
売上高	中間期	—	—	1,884	2,033	<b>1,392</b>
	通期	3,268	3,414	3,829	3,983	<b>3,800 (予想)</b>
営業利益又は 営業損失(△)	中間期	—	—	208	191	△23
	通期	154	222	337	401	<b>245 (予想)</b>
経常利益又は 経常損失(△)	中間期	—	—	215	203	△19
	通期	159	233	345	412	<b>250 (予想)</b>
中間(当期)純利益又は 中間純損失(△)	中間期	—	—	125	122	△12
	通期	80	109	197	249	<b>147 (予想)</b>
総資産		3,659	3,757	3,752	4,463	<b>3,824 (中間期)</b>
株主資本		1,904	1,994	2,153	2,587	<b>2,506 (中間期)</b>

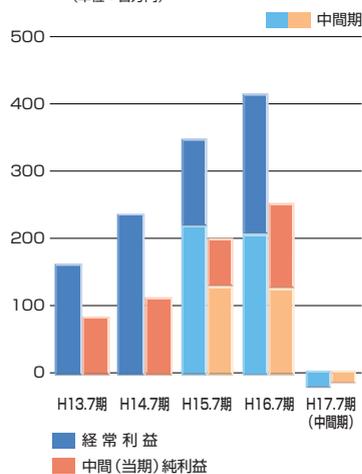
■ 売上高・営業利益

(単位：百万円)



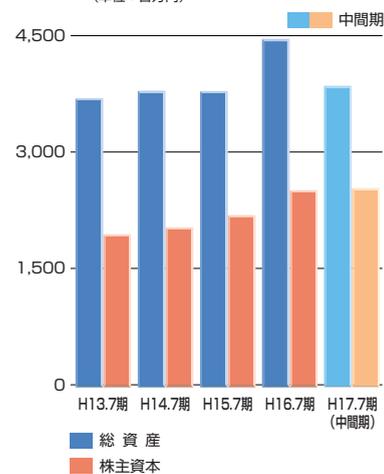
■ 経常利益・中間(当期)純利益

(単位：百万円)



■ 総資産・株主資本

(単位：百万円)



株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社第44期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶をかね、当社の概要についてご案内申し上げます。



代表取締役社長 原 淳

### ◆当中間会計期間業績の総括

当中間会計期間の包装機械業界は、中小企業の設備投資意欲は低調のまま推移し、最大需要先である食品業界においても、設備投資の慎重姿勢が続いております。

このような経営環境の中で、当社は医療分野・健康食品関連業界等への積極的な受注活動を推進するとともに、大企業を中心とした大型設備投資のシステム受注の強化に努めてまいりました。この結果、受注高は前年同期を大幅に上回る状況で推移しております。しかしながら、当中間会計期間は売上計上可能な短納期案件の受注の低迷、昨年の自然災害等の影響などにより、誠に不本意ながら売上高は前年同期比で減収、収益面でも経常損失となりました。

### ◆中期経営計画の達成に向けて

当社は平成19年7月期をゴールとする「新中期経営計画」を推進しており、経営ビジョンとして下記の3つを掲げております。

- ①ドライ物向けのロータリー式自動包装機ナンバーワン企業
- ②知的労働特化型企業
- ③包装システムの市場創造型トータルプランナー

このビジョンの実現に向けた基本戦略として、包装機械業界の中で事業領域をドライ物（乾いた粉末・顆粒・固形物等）向け包装システムに特化し、これまで取り組んできた「ドライ分野における包装システムのオンリーワン企業を目指すためのペンタゴン経営」をさらに強力に推進いたします。

主な具体的な経営戦略としては、第一に営業・開発体制の強化、第二に高齢化社会の到来・健康志向の高まりにより、今後も包装機械需要が期待される医療分野・健康食品関連業界への受注活動の強化、第三に当社の包装機をベースとした包装システムの営業力の強化、を図ってまいります。これらの施策により、強固な収益基盤を構築し、一層の業績の向上と企業の健全性に努めていく所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年4月

# 営業概況

## ◆当中間会計期間の概況

当社の営業活動におきましては、主力とする食品業界に加え、高齢化社会の到来や健康志向の高まり等から、設備投資需要の増加が期待される医療分野・健康食品関連業界等への積極的な受注活動を推進してまいりました。また、大企業を中心とした大型設備投資のシステム受注の強化に努めてきた結果、来期売上計上の大型受注獲得もあり、受注高は前年同期に比較して大幅な増加となりました。

一方、当中間会計期間に売上計上可能な短期納期案件の受注が低迷するとともに、昨年の自然災害等の影響もあり設備投資時期のずれ込み等により、中小型案件を中心とした更新需要及び客先新企画需要が低調に推移しました。

この結果、当中間会計期間の売上高は、高価格機種の実績が低迷するとともに、前年同期に比べて販売台数が減少したことから、当初計画対比未達成に終わり、1,392百万円（前年同期

比31.5%減）となりました。また、売上高が低迷する中で販売費及び一般管理費を抑制しましたが、高難度仕様案件で低粗利益機種の発生等により売上総利益率が減少したこともあり、経常損失は19百万円（前年同期は203百万円の経常利益）、中間純損失は12百万円（前年同期は122百万円の中間純利益）と極めて不本意な結果となりました。

## ◆品目別売上高の概況

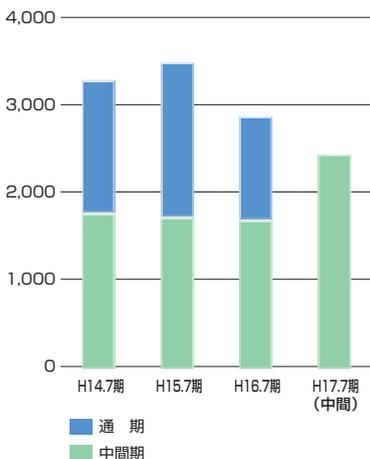
給袋自動包装機は、短期納期案件の受注が低迷し、販売台数が減少したことから、売上高は683百万円（前年同期比32.6%減）となりました。

製袋自動包装機は、販売台数は増加しましたが、高価格機種の実績が減少したことから、売上高は215百万円（前年同期比16.5%減）となりました。

ガス充填自動包装機は、当初計画を上回りましたが、前年同期に比べ更新需要が低調であったことから、売上高は71百万

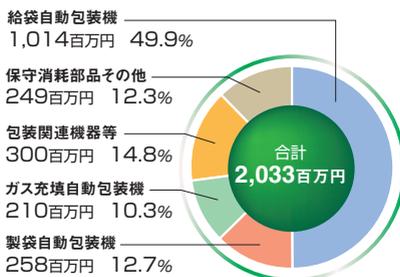
### ■ 機械受注高

（単位：百万円）

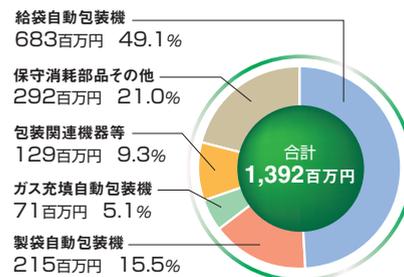


### ■ 品目別売上高構成比

平成16年1月(第43期中間期)



平成17年1月(第44期中間期)



円（前年同期比66.0%減）となりました。

包装関連機器等は、前年同期に比べ大型システムの実績が無かったことと、少額機器の販売台数が減少したことから、129百万円（前年同期比57.0%減）となりました。

保守消耗部品その他につきましては、給袋自動包装機を中心とした機械の買換需要等が低迷した反面、保守需要が増加したため、売上高は292百万円（前年同期比17.2%増）となりました。

#### ◆通期の見通し

通期業績につきましては、期初計画時点で当期に受注を確保し売上計上が可能と見込んでいた約500百万円の大型システム見込み案件が、受注は確保できたものの売上計上が来期にずれ込むことが確定したことから、大幅な計画のずれが発生しました。また、期初計画外の当期に売上が可能な新規受注見込み案件による計画ずれの一部挽回も期待されますが、ユーザーの設

備投資時期が先送りされる傾向と意思決定が遅れ気味で推移している状況下では、売上計上の来期への繰越の可能性も残ることから、通期業績の計画ずれの回復は困難な見通しとなりました。

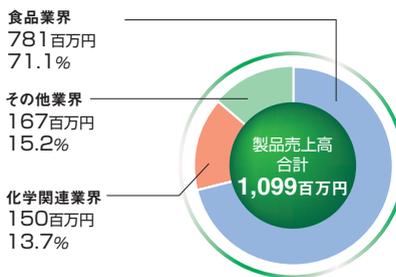
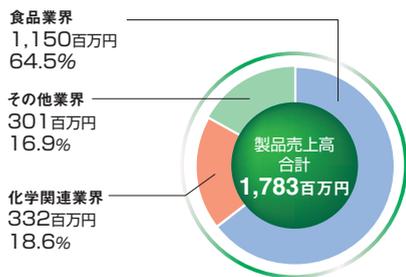
売上高に関しましては、中間期で計画を下回るとともに、上記要因等により、当期の売上計上分の受注が計画通りに進展せず、前回発表予想に比べ11.6%減少する見通しとなりました。このため、通期の売上高は3,800百万円（前期比4.6%減）を予想しております。

また、利益面に関しましては、値引要請が強く、引き続きコストダウンと販売費及び一般管理費の抑制等に努めるものの、中間期で売上総利益率が当初計画値を下回るとともに、売上高減少に伴う固定費負担も高まることから、経常利益250百万円（前期比39.3%減）、当期純利益147百万円（前期比41.0%減）を予想しております。

#### ■ 最終ユーザー業界別売上高構成比

平成16年1月（第43期中間期）

平成17年1月（第44期中間期）



- (注) 1. 製品売上高合計は、給袋自動包装機、製袋自動包装機、ガス充填自動包装機、包装関連機器等の売上高合計であります。
2. 食品業界には、精米・製氷・製粉・饅頭業界等を含めております。
3. 化学関連業界には、製薬・化粧品業界のほか、健康食品関連についても含めております。
4. その他業界は、機械業界、受託包装業界、種苗業界、ペットフード業界等です。

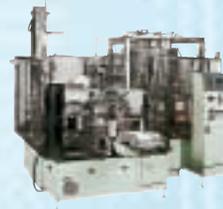
## 給袋自動包装機

粉末から固形物まであらゆる充填物（米菓、キャンデー、ビスケット、スナック食品、穀類、豆類、ふりかけ、パン粉、各種海産物、小麦粉、きな粉、だんご粉、うま味調味料、粉末薬品、機械・電気等の部品、その他袋詰可能な物）に対応できます。また、対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに対応が可能です。



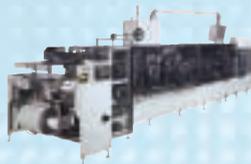
## ガス充填自動包装機

不活性ガス封入（花かつお、コーヒー、バターピーナッツ、お茶、ビーフジャーキー、カットチーズ、生パン粉等のガス充填包装対象物）により商品のシェルフライフを延長させることが可能です。



## 製袋自動包装機

充填物は、給袋自動包装機と同様ですが、小袋の高速包装から大袋用包装（精米、業務用スパゲティ、顆粒洗剤、うま味調味料、輸液バック等）までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



## 包装関連機器

当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱うことで、幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能です。



## ロータリー式 包装技術

包装システムのトータルプランナーとして、当社が誇るコア技術のひとつが、ロータリー式包装技術です。省スペースを実現し、汎用性が高く、高難度な包装にも柔軟に対応できるシステムについて解説いたします。

ロータリー式包装技術は、当社のコア技術として給袋自動包装機、製袋自動包装機、ガス充填自動包装機に採用しており、袋取り(給袋)→印字→袋開口→充填→底振動→エア吹き飛ばし→シールなどの各包装工程を円を描いて進みながら、袋詰めができる方式です。主な特徴としては、カムやリンクを使うメカニカル機構を採用していることで、各工程ごとに異なった作業ができ、袋を下から押し下り、振動を利用してモノを沈下させて、効率のよい充填を可能にしました。また、各メーカーの仕様に合わせてオプションも付けやすいことで、汎用性が高く、タイの工場では126種類の袋に対応しています。耐久性としては、鋳物などの部材を多く使用しているため、25年以上の稼動が可能です。今後ともメーカーの現場の要求に対応し、研鑽を重ね、製品の高品質化を実現していくことで、市場における更なる競争優位性を高めていきます。



# 財務諸表

## ■中間貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当中間期(第44期) 平成17年1月31日現在	前中間期(第43期) 平成16年1月31日現在	前期(第43期) 平成16年7月31日現在
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>3,132,398</b>	<b>3,556,704</b>	<b>3,807,073</b>
現金及び預金	1,570,241	1,598,698	1,534,295
受取手形	197,554	323,929	251,999
売掛金	509,159	797,028	1,238,963
たな卸資産	698,866	630,616	684,773
未収入金	114,305	178,636	64,601
その他	42,271	29,209	32,440
貸倒引当金	—	△ 1,414	—
<b>固定資産</b>	<b>692,121</b>	<b>557,534</b>	<b>655,933</b>
●有形固定資産	<b>507,693</b>	<b>393,822</b>	<b>482,058</b>
建物	343,713	226,021	222,628
その他	163,979	167,801	259,430
無形固定資産	<b>2,567</b>	<b>2,650</b>	<b>2,497</b>
投資その他の資産	<b>181,860</b>	<b>161,060</b>	<b>171,377</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,824,520</b>	<b>4,114,238</b>	<b>4,463,007</b>

### POINT 1

当中間期末の有形固定資産は本社南隣の新社屋建設（平成16年8月完成）による建物の増加に対し、建設仮勘定が無くなったことによりその他が減少したことから、前期末比25百万円の増加となりました。

科 目	当中間期(第44期) 平成17年1月31日現在	前中間期(第43期) 平成16年1月31日現在	前期(第43期) 平成16年7月31日現在
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>1,031,611</b>	<b>1,364,029</b>	<b>1,591,791</b>
支払手形	539,190	780,654	784,590
買掛金	229,298	193,468	334,453
賞与引当金	34,027	22,424	23,186
その他	229,095	367,482	449,561
<b>固定負債</b>	<b>285,949</b>	<b>275,961</b>	<b>283,972</b>
退職給付引当金	25,621	25,026	27,837
役員退職慰労引当金	260,327	250,935	256,135
●負債合計	<b>1,317,560</b>	<b>1,639,990</b>	<b>1,875,763</b>
<b>資本の部</b>			
資本金	251,577	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269	282,269
利益剰余金	1,961,576	1,936,840	2,045,244
その他有価証券評価差額金	12,193	4,001	8,808
自己株式	△ 655	△ 439	△ 655
<b>資本合計</b>	<b>2,506,959</b>	<b>2,474,248</b>	<b>2,587,244</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>3,824,520</b>	<b>4,114,238</b>	<b>4,463,007</b>

### POINT 2

負債合計は、前期末比558百万円の減少となりました。これは主として、売上高減少による仕入債務の減少と未払法人税等の減少によるものであります。

## ■ 中間損益計算書

(単位：千円)

科 目	当中間期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年1月31日まで	前中間期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年1月31日まで	前期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年7月31日まで
売上高	1,392,521	2,033,400	3,983,212
売上原価	1,047,441	1,436,796	2,800,304
売上総利益	345,079	596,603	1,182,908
販売費及び一般管理費	368,864	404,629	781,393
営業利益又は営業損失(△)	△ 23,784	191,974	401,515
営業外収益	7,628	42,124	43,461
営業外費用	2,977	30,623	32,317
● 経常利益又は経常損失(△)	△ 19,134	203,474	412,660
特別利益	—	104	6,403
特別損失	100	—	—
税引前中間(当期)純利益 又は税引前中間純損失(△)	△ 19,235	203,578	419,064
法人税、住民税及び事業税	437	81,173	182,950
法人税等調整額	△ 6,970	△ 283	△ 12,964
中間(当期)純利益 又は中間純損失(△)	△ 12,701	122,688	249,078
前期繰越利益	163,277	103,151	103,151
中間配当額	—	—	17,985
中間(当期)未処分利益	150,576	225,840	334,244

## POINT 3

経常損失は、前中間期の経常利益に比べて222百万円減少し、19百万円となりました。これは主として、売上高が前中間期比31.5%減少した中で、販売費及び一般管理費を前中間期比8.8%減少に抑制しましたが、売上総利益が前中間期比42.2%減少したことによるものであります。

## ■ 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当中間期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年1月31日まで	前中間期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年1月31日まで	前期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	164,082	288,096	309,911
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 92,457	△ 37,826	△ 102,289
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 35,679	235,064	213,309
現金及び現金同等物の増加額	35,945	485,334	420,931
現金及び現金同等物の期首残高	1,534,295	1,113,364	1,113,364
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,570,241	1,598,698	1,534,295

(注) 中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間キャッシュ・フロー計算書の記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

## 財務探求

財務の観点から、当社をご理解いただくために

## 固定比率 27.6%

固定資産と資本の比率で、固定資産投資の安全性を見る指標です。固定資産投資が自己資本の範囲内であれば、返済義務はなく、資金繰りの面で安全といえます。一般的に固定費比率は100%以下が理想的です。

当中間期は、固定資産の増加に対し、中間純損失の計上等により資本合計が減少したことから、固定比率は前期末比2.2%増加の27.6%となりました。

今後とも、高い安全性を維持するために、成長のための投資を行いながら、安定した収益を確保して資本合計を増加させていくことで、固定比率を50%以下に維持していくことを目指しております。

## ■ 会社概要 (平成17年1月31日現在)

商 号 ゼネラルパッカー株式会社  
 英 文 社 名 GENERAL PACKER CO., LTD.  
 設 立 昭和36年12月  
 資 本 金 2億5,157万7千円  
 事 業 内 容 各種自動包装機・荷造用機械及び  
 周辺装置の製造・販売・修理、  
 それに附帯する一切の業務  
 従 業 員 数 93名  
 本 社 ・ 工 場 〒481-8601  
 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地  
 Tel. (0568)23-3111(代)  
 Fax. (0568)22-3222



本 社

東 京 営 業 部 〒101-0045  
 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8  
 神田木原ビル4F  
 Tel. (03)3256-3891(代)  
 Fax. (03)3256-3893

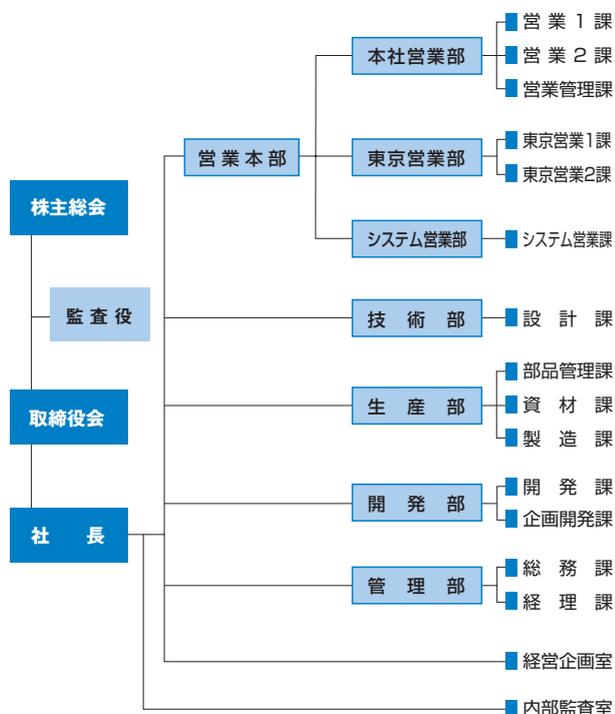


東京営業部

## ■ 取締役及び監査役 (平成17年1月31日現在)

代表取締役社長	原 淳	
専務取締役	池 澤 晃	管理部長
常務取締役	安 江 禎 治	技術部長
常務取締役	倉 知 泰 助	生産部長
取締役	島 末 孝 法	開発部長
取締役	梅 森 輝 信	営業本部長 兼システム営業部長
常勤監査役	山 本 勝 巳	
監査役	村 橋 泰 志	
監査役	西 浦 道 明	

## ■ 組織図 (平成17年1月31日現在)



## ■ 株式の状況 (平成17年1月31日現在)

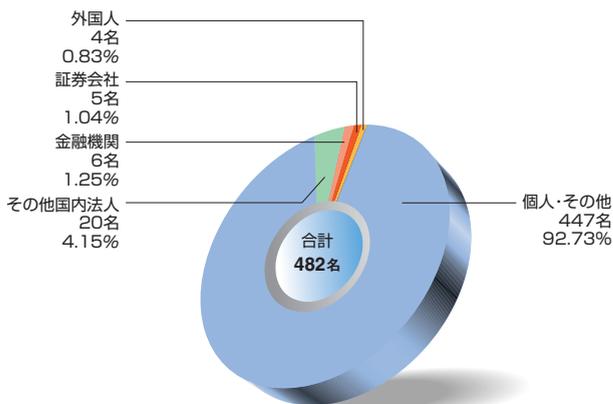
会社が発行する株式の総数	14,000,000株
発行済株式総数	4,497,000株
株主数	482名

### 大株主

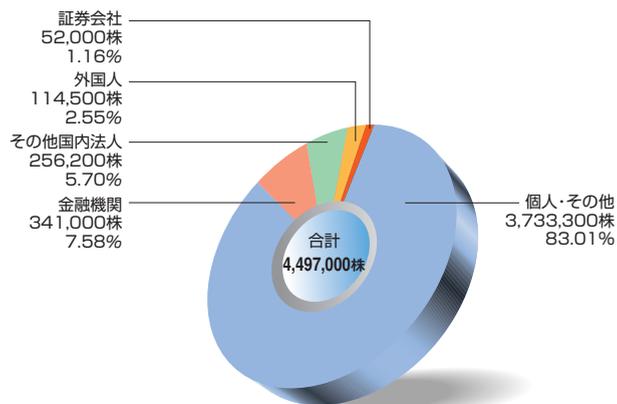
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	578,000	12.87
高野 まさ子	500,000	11.13
原 淳	366,000	8.15
りそなキャピタル株式会社	199,000	4.43
株式会社りそな銀行	196,000	4.36
高野 季久美	182,000	4.05
田中 かな	182,000	4.05
安江 禎治	137,900	3.05
原 利子	112,000	2.49
原 晋一郎	112,000	2.49

## ■ 所有者別分布状況

株主数構成比



株式数構成比



## ■ 株主メモ

決算期	7月31日
定時株主総会	10月
基準日	7月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日	利益配当金 7月31日 中間配当金 1月31日
名義書換代理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目3番17号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 Tel. (052)261-1781(代)
同取次所	日本証券代行株式会社本支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、  
新着情報、会社情報、商品情報、  
IR情報等、様々な情報をご提供しています。  
今後も皆様にお役立ていただけるよう  
掲載情報の一層の充実を  
図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>

 包装システムのトータルプランナー  
**ゼネラルパッカー株式会社**

**本社・工場**

〒481-8601 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地  
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

**東京営業部**

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F  
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。古紙配合率100%再生紙を使用しています。

**R100**